

# 第2次草津市食育推進計画の評価について

【目標値からの評価】  
 ◎ 目標達成  
 ○ 改善傾向にある  
 △ 策定時と比較はできないが、現状で目標値を達成できていないもの  
 × 悪化の傾向にある  
 — 未評価

資料3-1

基本方針	施策および事業	目標項目	策定時(H21)	目標値(H29)	現状値(H27マップ他)	評価	出典	評価	課題
ココロを育む	(1)共食の推進 (2)食に対する感謝の心を持ち、食への関心と理解を深める								・15～19歳の夕食を除き、「孤食」の割合が増加 ⇒核家族や1人親家族、共働きの増加など、暮らし方も多様化しています。家庭に限らず、地域を含めた「食を通じたコミュニケーション」の実践が求められる。 ・例えば様々な雇用形態が増えた事から、生活リズムや食事時間などが変わることがあるなど、食生活は多様化している。 ・園児や小学生などは、子どもの頃から農業体験や調理を通じて食への関心や理解を深め、感謝の気持ちを育むことができています。 ・食育に関心のある人の割合(20歳以上)は60%にとどまった。 ⇒指標にはないものの、健康・栄養マップにおいて、「食育に関心がある」と答えた20代の割合は50%以下であり、特に若い世代を中心として食育を推進する必要がある
	食育の日の推進 地域協働学校推進事業 たんぼのこ体験事業 体験活動やクッキングの実施 学校における食育の推進 老上公民館食育講座 くさつヘルスアッププロジェクト【食育推進デー】	一人で食事をする人の割合	朝食 12～14歳	10.7%	減少	16.28	×	1	
			朝食 15～19歳	25.6%		33.33	×	1	
			夕食 12～14歳	0%	現状維持	2.33	×	1	
			夕食 15～19歳	5.0%	減少	1.75	◎	1	
食育に関心がある人の割合			67.3%	90%	60.03%	×	1		
カラダを育む	(1)望ましい食習慣の形成とバランスのとれた食事の実践 (2)年齢や健康状態に応じた食に関する指導の充実								・朝食欠食率が増加 ⇒20代および30代の男性では改善傾向。小5、中2では悪化の傾向。特に子どもに対する積極的なアプローチが必要。 ・バランスのとれた食事に気をつけている人の割合が低下 ※「バランスのとれた食事を心がけている(H21)」→「穀類と魚介類・肉類・卵類・大豆製品と、野菜を組み合わせた食事を心がけている(H27)」と踏み込んだ内容に変えている。 ⇒特に青年期～壮年期を対象に、食事バランスに関する啓発を行う必要がある。 ・噛むことに満足している人の割合は改善傾向。今後も継続して啓発を行う必要がある。 ・20代～60代の男性における肥満者の割合が増加 ⇒女性で改善傾向。男性は悪化。個人に応じた適正量摂取や食事バランスの啓発が必要。 ・15～19歳女性「やせの人の割合」が増加。20代女性「やせの人の割合」については改善傾向。 ⇒正しい食習慣などの知識の普及、個人に応じた必要エネルギー量や適正量摂取などの啓発が必要。 ・脂質エネルギー比の増加 ⇒男女ともに悪化。県や圏域と比較しても高い。食事バランスについて啓発が必要。 ・野菜摂取量・果物摂取量ともに減少 ⇒野菜の摂取量や食事バランスについて啓発していく必要がある。 ・食塩摂取量は減少傾向(目標値には及ばず) 減塩給食など、継続した取組が重要。 (総評) ・脂質エネルギー比・野菜摂取量の状況の改善を図るために、食事バランスを意識してもらうことが重要である。 ・生活習慣病など、食と直結する病気のリスクを含め、正しい知識を習得し、自身に合った情報を選択、実践する力が必要である。 (参考) 成果指標には無いが、「食育に関心がある」「バランスのとれた食事に気をつけている」「野菜を食べることを心がけている」全てに「はい」と答えた人の野菜平均摂取量は281.5gであり、目標の350gには届いていない。 ⇒意識していても、実践の段階で結果が伴っていない。
	朝食を欠食する人の割合	小5	2.1%(H24)	0%	3.9%	×	2		
		中2	3.3%(H24)	0%	6.2%	×	2		
		高2	11.3%(H24)	5%	-	-	2		
		20歳代男性	30.8%	18%	21.9%	○	1		
		30歳代男性	25.0%	19%	21.8%	○	1		
	バランスのとれた食事に気をつけている人の割合	20歳代男性	23.1%	36%	18.8%	×	1		
		20歳代女性	40.0%	64%	29.8%	×	1		
		30歳代男性	33.0%	44%	25.5%	×	1		
		30歳代女性	58.7%	67%	51.4%	×	1		
		40歳代男性	37.0%	52%	21.9%	×	1		
	食生活上、かむことに満足している人の割合 60歳		54.5%(H24)	65%	61.1%	○	6		
	肥満者の割合	男性(20～69歳)	19.5%	17%	27.4%	×	1		
		女性(40～69歳)	18.0%	15%	14.4%	◎	1		
やせの人の割合	女性(15～19歳)	20.0%	10%	35.5%	×	1			
	女性(20～29歳)	30.9%	19%	23.4%	○	1			
総エネルギー量に対する脂質のエネルギー比率	20歳代男性	30.1%	30%未満	34.90%	×	1			
	20歳代女性	31.5%		32.31%	×	1			
	男性(30～59歳)	27.0%	25%未満	28.85%	×	1			
	女性(30～59歳)	28.8%		29.89%	×	1			
野菜の平均摂取量	成人	258.0g	350g	252.2g	×	1			
食塩の平均摂取量	成人	10.0g	8g	9.1g	△	1			
果物の摂取量が100g未満の者の割合	成人	66.8%	34%	67.13%	×	1			

基本方針	施策および事業	目標項目	策定時(H21)	目標値(H29)	現状値(H27マップ他)	評価	出典	評価	課題
地域を育む	(1) 食文化の継承と地産地消の推進								<p>・地場産物を認知している人、地場産物を購入するよう心がけている人の割合は減少している。 ⇒食文化の継承と地産地消の推進のため、実践に繋げる必要がある。</p> <p>・健康推進員による食育推進事業の参加者数は増加している。健康推進員の人数は横ばいである。</p> <p>・地域に根差した食育や健康づくり活動を充実させるための人材を増やす必要がある。</p>
	(2) 食育推進運動の展開								
	地域協働合校推進事業 たんぼのこ体験事業 多文化の料理教室 地産地消を取り入れた給食の実施 行事食の伝承や旬の食材を取り入れた給食の推奨 学校における食育の推進 学校給食における地産地消の推進 家庭教育学習出前講座の実施 健康推進員による食育推進事業 推進員の育成、活動支援 草津市家庭教育学習事業費補助金 くさつヘルスアッププロジェクト【食育推進デー】	学校給食における地場産物を使用する割合(食材数ベース)	34.5%(H24)	増加	53.10%	◎	8		
		地場産物を購入するよう心がけている人の割合	58.7%(H24)	70%	50.6%	△	5		
		健康推進員の人数	180人(H24)	226人	193人(H27) 184人(H28)	△	4		
健康推進員による食育推進事業の参加者数		—	約2,000人	2734人(H27) 3565人(H28)	◎	—			
生活を育む	(1) 安全・安心な食環境の推進							<p>・栄養成分表示を参考にする人の割合は増えている。</p> <p>・学校給食の残渣率は減少している。 ⇒学校だけでなく、家庭などにおいても、食品ロスの削減をはじめとした食環境に配慮した食生活を推進し、周知と実践を図ることが必要である。</p> <p>・食の安全・安心について知識と理解を深め、適正に選択する力を身につけられるよう支援する必要がある。</p>	
	(2) 環境への意識を高める								
	食品展示学習会 「食の安全」についての知識普及・啓発 環境学習教材貸出事業 環境保全型農業直接支払交付金事業 段ボールコンポストの普及・啓発 エコレシビコンテストの開催 3010運動の推進	栄養成分表示を参考にする人の割合	男性	24.5%	増加	32.9%	◎		1
			女性	47.5%		50.3%	◎		1
		外食栄養成分表示をしている店舗数	3店舗(H24)	増加	3店舗	△	3		
環境こだわり農産物の栽培面積		221.6ha(H24)	276ha	274.3ha	○	7			
学校給食の残渣率(1人あたり)	20%(H25)	減少	9.7%(H28)	◎	8				

- 【出典の項目】
- 1 平成27年度 滋賀の健康・栄養マップ調査(滋賀県)
  - 2 朝食摂取状況調査(スポーツ保健課)H28.10調査
  - 3 外食栄養成分表示推進事業(草津保健所)
  - 4 平成27年度「草津市健康増進課事業年報」(健康増進課)
  - 5 平成27年度 草津市のまちづくりについての市民意識調査(企画調整課)
  - 6 草津市節目歯科健康診査(健康増進課)
  - 7 環境こだわり農産物の栽培面積報告(農林水産課)
  - 8 学校給食センターより報告